

# 一般社団法人 京都大学学士山岳会 事業報告・決算ならびに事業計画・予算

## 1 2024 年度事業報告

### I 山岳および登山に関する学術調査および研究について(定款第 2 章第 4 条第 1 項)

1. 1979 年に設立されたヒマラヤ委員会を適宜開催し、海外高峰への学術登山隊派遣について検討を重ねた。
2. ヒマラヤ、カラコラム、チベット、崑崙地域および南極地域等における登山ならびに学術探検に関する研究を継続した。
3. 1973 年 4 月に本会内に設立された旧国際登山探検文献センターで収集された登山探検資料を京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科に寄贈し、文献資料目録を編纂するとともに引き続き資料の充実と収集資料の整理を行った。
4. 会設立から現在まで本会会員が主催または参加した海外遠征の写真、映像資料を集める AACK アーカイブス事業委員会(委員長:会員松林公蔵)を設けて、資料の整理にあたった。
5. 雲南・チベット地域の総合的研究を目的に 2004 年に設立された雲南懇話会(代表:会員安仁屋政武)の運営に協力した。
6. 「ヒマラヤという第 3 の極地」を対象にしたユニークな教育研究組織として 2016 年に設立された京都大学ヒマラヤ研究ユニットの運営に協力した。
7. 第 43 回日本登山医学学会学術集会の運営に本会会員が協力した。

### II 一般社会に対する健全な登山の指導奨励ならびにこれに必要な研究会、講習会および展覧会等の開催について(同第 2 項)

1. 公益社団法人日本山岳会評議員として会員中山茂樹が、同広島支部長として会員森戸隆男が、同関西支部評議員として会員田中昌二郎が同会の運営に協力し、国内外の登山探検の振興に努めた。
2. UIAA(国際山岳連合)に会員として中島道郎、松林公蔵らが同会の運営にあたった。
3. 新潟県妙高市京都大学笹ヶ峰ヒュッテにて、一般登山者に対して、本会会員を指導者として登山技術、遭難防止、自然愛護を目的とした講習を実施した。

### III 国内、国外における登山および探検に対する企画および協力について(同第 3 項)

1. ダーチャ・マライニ氏を日本に迎える会・東京より、AACK Newsletter No. 32 に掲載されている会員谷泰の「オスコ・マライニの死にちなんで」を全文掲載の依頼があり、本人の許諾のもとこれに応じた。
2. 滋賀県東近江市在住の佐々木司氏よりマナスル峰登頂を目指すにあたり、本会に資料提供等の要請があり、本会理事高井正成らがこれに協力した。登頂は無事成功した。これをきっかけとして、東近江市とネパールの新たなつながりをテーマにした企画展

示が西堀榮三郎記念探検の殿堂で3月29日より10月26日までの日程で開催されることとなった。

3. 岳人編集部より岳人12月号（2024年）掲載の「なぜ山に登るのか」と題する特集記事において本会に協力要請があり、本会理事松林公蔵の著作を提供するとともに、本会理事榎原雅晴、牛田一成、竹田晋也、高井正成らがこれに応対した。
4. 2024年12月の共同通信配信の記事の編集にあたり本会会长幸島司郎らがこれに協力した。
5. 北大山岳部創立100周年記念・東京支部事業の一環である「チベット紀行 トランシヒマラヤを巡る：北大山の会チベット調査隊編著」の出版に、本会理事横山宏太郎と本会会員月原敏博が著者として加わり協力した。同書は2025年2月14日に発行された。

#### IV 山岳登山に関する図書、機関誌などの発行について（同第4項）

1. 『2023年度事業報告および収支決算書・2024年度事業計画および収支予算書』を作成し、公開した。
2. 『AACK Newsletter No. 109～No. 111』の編集・発行を行い、会員相互の情報交換を図った。
3. 京都大学ヒマラヤ研究ユニットが発行する『ヒマラヤ学誌 第21号』の編集に協力した。
4. 『AACK 時報 第15号』の編集作業をすすめた。
5. 本会の公式ウェブサイト([www.aack.info](http://www.aack.info))を運営し、本会の歴史や事業活動および社会的貢献について広く情報公開するとともに、会員および会員外の情報交換の場を提供した。
6. 2011年5月の本会総会で設置が決定されたアーカイブス委員会を中心に資料収集とその整理・デジタル化を進め、本会の公式ウェブサイト([www.aack.info](http://www.aack.info))内で立ち上げた「AACK の活動アーカイブス」の充実に努めた。

#### V 目的を同じくする国内および国外の団体との連絡ならびに情報の交換について（同第5項）

1. 現地国での登山・学術調査を契機として始まった国外の関係機関との交流をさらに深めた。
2. スイスにあるAACZ (Academic Alpine Club of Zurich)の会員であるMartin Hood氏によるAACK発足時に同会と交流のあった故高橋健治会員の足跡を記したAnnual Report of AACZを京都大学附属図書館に寄贈した。

#### 2 2025年度事業計画

#### I 山岳および登山に関する学術調査および研究（定款第2章第4条第1項）

1. ヒマラヤ, カラコラム, チベット, 崑崙地域等における登山ならびに学術探検の文献の収集ならびに研究
  - (1) ヒマラヤ等上記の地域の登山ならびに地質学, 気象学, 氷河学, 動物学, 植物学, 人類学, 医学などの学術探検に関する文献資料を収集し, それぞれの分野に関して研究を行う.
  - (2) 過去数十年にわたる本会の海外遠征および学術調査によって蓄積された学術資料ならびに国内外から収集した学術資料を京都大学総合博物館ならびに京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科に 2000 年に寄贈した. 引き続きその資料充実と収集資料の整理に協力する.
  - (3) 本会会員が主催または参加した海外遠征の写真, 映像資料等を集める AACK アーカイブス事業を担う委員会の活動を継続し, 資料の整理を進める.
  - (4) 雲南・チベット地域の総合的研究を目的に 2004 年に設立された雲南懇話会の運営に協力する.
  - (5) 「ヒマラヤという第 3 の極地」を対象にしたユニークな教育研究組織として 2016 年に設立された京都大学ヒマラヤ研究ユニットの運営に協力する.
  - (6) 第 44 回日本登山医学会学術集会の運営に本会会員が協力する.

## 2. 高所登山に関する調査研究

本会が主催した海外遠征によって得た資料を基に, 引き続き, (1)高所医学, (2)高所気象学, 氷河学, (3)高所用装備, (4)高所用食糧, (5)高所山岳遭難の防止など, 高所登山に関する調査研究を行う.

## II 一般社会に対する健全な登山の指導奨励ならびにこれに必要な研究会, 講習会および展覧会等の開催(同第 2 項)

### 1. 登山講習会の開催と講師の派遣

健全な登山を奨励するため下記により登山講習会を行う.

#### (1) 登山講習 (京都大学山岳部と共に)

新潟県妙高市京都大学笹ヶ峰ヒュッテにて, 一般登山者に対して, 本会会員を指導者として登山技術, 遭難防止, 自然愛護を目的とした講習を実施する.

#### (2) 他団体主催講習会への講師の派遣

独立行政法人日本スポーツ振興センター, 公益社団法人日本山岳会ならびに UIAA(国際山岳連合)等それが主催する講習会に, 要請に応じて会員を講師として派遣する.

### 2. 研究会および展覧会等の開催

京都大学の登山、探検やフィールドワークの歴史を振り返り、未来を考える催しを企画する。

### III 国内・国外における登山および探検に対する企画および協力(同第3項)

#### (1) 国内山岳会の海外登山隊への資料提供と協力

国内の山岳会が主催する海外登山隊および学術調査隊に資料を提供し、十分な協力をを行う。

#### (2) アジア高山地域での登山および学術調査

各国の登山協会、山岳会、関係諸団体と連絡をとり、調査を行う。

#### (3) 遠征基金の運用および管理

1975 年度に本会に設立された京都大学学士山岳会遠征基金を遠征基金運用規程に基づき運用・管理する。

#### (4) 海外登山・探検助成制度の運用

2005 年度に設立した海外登山・探検助成制度を運用し、本会会員が主催する海外登山・探検に対して助成金を交付する。

### IV 山岳登山に関する図書・機関誌などの発行(同第4項)

#### (1) 『事業報告・事業計画』を作成し、公開する。

#### (2) 『AACK 時報』の編集を行う。

#### (3) 京都大学ヒマラヤ研究ユニットが発行する『ヒマラヤ学誌』の編集・発行に協力する。

#### (4) 『AACK Newsletter』を年 4 回編集・発行し、全会員に配布して会員相互の情報交換を図る。

#### (5) 本会の公式ウェブサイト([www.aack.info](http://www.aack.info))を運営し、本会の歴史と活動、会員の動向や山行計画と報告などについて広く社会に情報公開し、会員および会員外の情報交換の場とする。また、本会の公式ウェブサイト内で立ち上げた「AACK の活動アーカイブス」のさらなる充実に努める。

### V 目的を同じくする国内および国外の団体との連絡ならびに情報の交換(同第5項)

アジア高山地域での関係機関との交流を深め、また、国内外の山岳会との情報交換に努めて、これら各国登山関係者との親善に貢献する。